

小・中学生を連れてイギリスへ赴任されるご家族へ

現地校入学のために



公益財団法人 海外子女教育振興財団

イギリスの現地校に入学ということ

イギリスの学校制度は複線型といわれます。さまざまな形態の学校があり、また義務教育修了時に試験を受け、試験結果や希望する進路に応じて、それぞれの進学先に分かれていきます。

現地校はイギリスの教育制度にもとづく学校であり、英語を学ぶための語学学校ではなく「イギリスの公教育」を受ける場です。現地校では言語の違いはもとより、日本の学習内容や教育方法との違いなどから、大きな戸惑いを感じることもあります。現地校に入学するにあたって、保護者の方はイギリスの教育制度や教育内容、使用言語などを理解するとともに、お子さんの学習や学校生活に積極的に協力・支援をしていくことが必要です。

イギリスの正式名称は、「グレートブリテン及び北アイルランド連合王国 (United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland)」といい、イングランド・ウェールズ・北アイルランド・スコットランドから構成されています。前三地域はほぼ同様の教育制度なのに対し、スコットランドはやや異なっています。このパンフレットでは、主にイングランドに小・中学生のお子さんを連れて赴任された場合の現地校入学について紹介します（本パンフレットに掲載している情報は2012年10月現在のものです）。

Q1

イギリスの初等中等教育のシステムは複雑と聞きましたが、どのようになっていますか。

A1

イギリス				日本				
私立	公立		学年/クラス	年齢	学年			
Pre Prep School	(Nursery School)	Infant	Nursery	3-4	年少	幼稚園		
			Reception	4-5	年中			
			Year 1	5-6	年長			
Preparatory School	Primary School	Junior	Year 2	6-7	1年	小学校		
			Year 3	7-8	2年			
			Year 4	8-9	3年			
		Year 5	9-10	4年				
		Year 6	10-11	5年				
		Year 7	11-12	6年				
Senior/Public School *男子校のPublic Schoolは13歳～	Secondary School [- Comprehensive school - Grammar school]		Year 8	12-13	1年	中学校	中等教育学校	
			Year 9	13-14	2年			
			Year 10	14-15	3年			
			Year 11	15-16	1年			
			Year 12	16-17	2年			
6th Form College	6th Form	6th Form College	6th Form	Year 13	17-18	3年	高等学校	

義務教育期間

※イギリスの学校は9月から始まるため、対応する学年は厳密には半年ずれることになります。

義務教育は5歳から16歳までの11年間で、初等教育（5歳—11歳）と中等教育前期（11歳—16歳）に分かれています。義務教育後は、将来、大学への進学を希望する場合は大学への進学準備教育が行われるシックスフォーム（6th Form）へ進学し、特定の職業につくことを希望する場合は継続教育カレッジに進学することもできます。

公立の初等学校はプライマリー・スクール（Primary School）と呼ばれ、前期のインファント（Infant）と後期のジュニア（Junior）に区別されます。両者は一つの初等学校に併設されている場合もあれば、別の学校に分かれている場合もあります。

公立の中等学校は一般的にはセカンダリー・スクール（Secondary School）といい、ほとんどの生徒がコンプリヘンシブ・スクール（Comprehensive School）という無試験で入学できる学校に進学

します。地域によっては試験で入学者を選抜するグラマー・スクール (Grammar School) があります。

私立の学校の教育システムは基本的には公立と同じですが、年齢による学校区分や学年の呼び方は異なります。私立の初等学校はプレパトリー・スクール (Preparatory School)、中等学校はシニア・スクール (Senior School) と呼ばれます。いわゆるパブリック・スクール (Public School) はシニア・スクールの一種で、男子校は13~18歳、女子校は11~18歳の教育をしている学校が多く、寮生活をするボーディング・スクール (Boarding School) も多くみられます。

公立・私立ともに義務教育後の中等教育後期の課程であるシックスフォームは、中等学校に設置されているほか、シックスフォーム・カレッジ (6th Form College) と呼ばれる独立した学校もあります。

一口メモ

~様々な種類のあるイギリスの公立校~

イギリスの初等中等教育では、公費によって設置・維持されている公立の学校をステイト・スクール (State School) といいます (公費を受けない私立学校はインディペンデント・スクール (Independent School) と呼びます)。ステイト・スクールは、設置団体や運営形態によりさらに細かく分類され、もともと自治体主導で設置されたもの (Community School, Foundation School) や、教会をはじめとする民間団体が設置したもの (Voluntary Aided School, Voluntary Controlled School) があります。そのため、公立でありながら特定の宗教と関連の深い学校も多くあります。また、2010年7月にアカデミー法が成立し、公費で運営されるが、学校の運営 (教員の給与・条件・カリキュラム・学期・日程等) に比較的自由度の高い Academy と呼ばれる学校が増加しています。

~学年の呼び方~

イギリスでは、学年をYear〇といい、義務教育1年目の5歳 (日本の「年長」に相当) が「Year 1」、18歳 (日本の高校3年生に相当) が「Year 13」となります。学年は基本的には生年月日によって決まります。年齢の基準日は9月1日です。

Q2

イギリスの学校ではどのような学習をするのですか。

A2

公立学校の義務教育では、ナショナルカリキュラム (National Curriculum) と呼ばれる全国共通のカリキュラムが定められています。ナショナルカリキュラムは5歳から16歳までの義務教育の11年間を、4段階のキーステージ (Key Stage/KS) に分け、日本のように学年ごとではなく、キーステージごとに教科の学習内容を決めています。教科は、「コア教科」「基礎教科」「その他の教科」に分かれ、「コア教科」である英語・数学・理科は、どのキーステージでも学習します。「基礎教科」では、技術・情報 (ICT)・歴史・地理・美術・音楽・体育・現代外国語・公民を、「その他の教科」では、宗教・性教育・キャリア教育・労働体験学習の科目を学びます。キーステージ1~3には学習到達目標が定められていて、各ステージ修了時には到達度に関する評価が行われます。中でもキーステージ2の修了時には、英語・数学および理科について、全国テスト (SAT = Standard Assessment Test : 「National Curriculum Test」、 「Key Stage Test」 などとも呼ばれています) が行われます。各学校の標準到達レベルに達している生徒の割合がパフォーマンステーブル (Performance Table *Q3参照)

学年	キーステージ	修了時の評価
Year 1	Key Stage 1	教師による評価
Year 2		
Year 3		
Year 4	Key Stage 2	全国統一テスト
Year 5		
Year 6		
Year 7	Key Stage 3	教師による評価
Year 8		
Year 9		
Year 10	Key Stage 4	GCSE
Year 11		

に公表されるため、全国テストの結果は学校選択の指標の一つになります。

キーステージ4の最終学年 Year 11を修了すると義務教育が終わりますが、イギリスでは卒業証書を出すという制度がなく、中等教育修了一般試験である GCSE (General Certificate of Secondary Education)*の結果がイギリスでの義務教育修了資格となります。

*GCSE について

GCSE は民間の試験団体による科目別試験で、英語・数学・理科を含む5～10科目程度を受験します。筆記試験だけでなく、学校での実験・実習・エッセイなどの平常のコースワークが重視されます。GCSE は早期受験が認められているため、Year 10でもいくつかの科目を受験することが珍しくありません。

GCSE の結果は科目ごとに A* (A スター)、A、B、C、D、E、F、G の8段階の絶対評価がなされ、G に達しない場合は「U」となり、その科目は不合格となります。大学など高等教育機関への進学を目指すにはキーステージ4修了後にシックスフォーム課程に進学しますが、そのためには GCSE で一定の成績を取れていることが要件とされます。英国内での進学や就職を考えると、A*～C までの評価を得ておくことが望ましいとされています。

Q3 現地校はどのように選べばよいのでしょうか。

A3

学校選択をするには、それぞれの学校の特徴を調べ、お子さんの学力、ご家庭の教育観に合った学校を選ぶことが必要です。OFSTED*1の監査報告 (Inspection Report) やパフォーマンステーブル*2で学校の特徴や教育の質を調べたり、学校や自治体のホームページを見たり、学校案内 (Prospectus) を取り寄せたりするだけでなく、実際に学校を訪問し、校長先生や学校関係者と直接話をするのが大切です。この他、日本人にとっては英語のサポートの有無、日本人児童生徒の在籍状況も考慮すべき点です。

公立の学校は学区制をとっています。日本から渡航する場合、一般的には居住地の学区内から希望する学校を編入時は3校 (新入学時は6校) 選び、地方教育局 (Local Authority/LA) に申請します。地方教育局は、希望校の中で空きがあり、自宅に一番近い学校を指定します。人気校の場合は満員のことがあり、希望した3校のいずれもが定員を超えていると、希望校には編入できません。その場合、地方教育局から割り当てられた別の学校に通学するか、私立校を探すことになります。別の学校に通いながら、希望の学校の空きを待つこともできます。

私立校の多くは男女別学になっています。学校規模・教育方針・宗教・寮の有無など千差万別です。入学・編入学のためのテストは、日本でも受けられる学校があります。教育内容・英語学習の支援方法・入学・編入学の方法などをなるべく早く学校に問い合わせましょう。

*1 OFSTED : <http://www.ofsted.gov.uk/>

各学校 (私立校も含む) は、定期的に教育水準局 (OFSTED) の監査を受けます。監査内容は、カリキュラム・教科指導・生徒指導などの教育の質、全国テストや外部試験の結果による児童生徒の成績、学校の管理運営等です。監査結果は Inspection Report と呼ばれ、OFSTED の Web サイトに公開されます。

*2 パフォーマンステーブル : <http://www.education.gov.uk/schools/performance/index.html>

ナショナルテスト (キーステージ2修了時) や GCSE (キーステージ4修了時) の結果、欠席率、生徒の進路先等が、学校ごとに公表されたものをパフォーマンステーブルといい、英国教育省の学校情報サイトに公開されています。パフォーマンステーブルは、サッカーの順位表にたとえてリーグテーブルとも呼ばれています。

その他の学校情報検索サイト

1. GOV.UK (政府による公共サービスの情報サイト) の “School admissions and transport to school” ページ : <https://www.gov.uk/browse/education/school-admissions-transport>
2. 各居住地の地方自治体 (Council) のサイト :
GOV.UK から検索できます : <https://www.gov.uk/browse/housing/local-councils>
(例) Ealing Council の “Education” ページ : <http://www.ealing.gov.uk/info/100005/education>
3. Independent Schools Council (私立学校検索サイト) : <http://www.isc.co.uk/>

Q4 イギリスの学校は能力別クラス編成と聞いたのですが…。

A4

イギリスでは生徒の能力に応じた教育を行うことが教育水準の向上に効果があるという考えから、ほとんどすべての中等学校で能力別クラス編成を行っています。能力別クラス編成を行う科目は数学が多く、英語・理科・地理などの科目で実施している学校もあります。小学校では、Year 5や Year 6で算数や英語などの科目を能力別クラス編成で行う学校もありますが、多くは混合能力クラスの中で能力別グループ学習を取り入れています。

多様な能力に対応するために、出版社によっては、同一学年に対して基礎・標準・上級と学習内容や記述の仕方を変えた異なる教科書をつくっています。能力別クラス編成に合わせて、同一学年であっても、クラスごとに異なる教科書を使用する学校もあります。



〈混合能力クラスの中で能力別グループ学習〉

一つのクラスの生徒を能力別にグループ分けすることもあります。全体の説明の後、グループごとのテーブルに分かれ、それぞれのレベルに応じた学習を行います。

Q5 英語ができない子どもでも現地校でやっていけるのでしょうか。

A5

英語を母語としない子どもたちに対しては、EAL (English as an Additional Language) という英語の特別指導を行っている学校が公立校にもあります。しかし、通常のクラスの授業の中で追いつかせた方が効率よく英語を身につけられるという国の方針により、多くの学校では取り出しクラスを設けるのではなく、補助教員 (Teaching Assistant) をクラスに配置し、サポートが必要な生徒の補助にあたるという方法をとっています。EAL のサポートを受ける生徒かどうかの判断は学校に任されており、学校では “A Language in Common” という指標を使って決められます。

なお、学年は基本的には生年月日に基づき決まります。ただし、セカンダリー・スクールの入学・編入学に際しては、英語力や子どもの能力を総合的に判断して、学年を下げられる場合もあります。



〈補助教員による英語のサポート〉

在籍するクラスに補助教員 (右手前) が入り、授業を受けながら必要に応じてサポートを行います。

教科書

イギリスでは、公立・私立を問わず、原則として教科書は学校備え付けで、個人に1年間貸し与えられます。そのため、教科書に線を引いたり、字を書き込むことはできません。宿題が出されたとき以外は、教科書もノートも家に持って帰らないため、親にとっては子どもが学校で何を勉強しているかがわかりにくいという面もみられます。ただし、14歳以降はGCSEの準備が必要となるため、許可を得て家に持ち帰るか、個人で別に購入したりします。

Q6 親の英語力があまりないのですが、学校への対応はどうしたらよいでしょうか。

A6 お子さんの学校への編入学に際して親の英語力は問われませんが、子どもの教育に対して積極的に関わることは求められます。たとえただどしくても、手紙や連絡帳を活用し、家庭での学習や学校でのお子さんの様子について、積極的に先生と連絡を取り合みましょう。

渡英したばかりで英語に不安がある場合は、夫婦で協力し合い、時には通訳のできる方にもお願いしましょう。しかし、いずれは親として学校と連絡が取れる英語力は必要になります。子どもに親の学習姿勢を見せることも大切です、コミュニケーションが取れるようになると、親自身のストレスの解消にもつながります。大人のための英語教室を受講したり、趣味を通して英語を学んだりして、英語力を向上させましょう。

Q7 宿題に対して、親はどのようにサポートしたらよいのでしょうか。

A7 渡英間もない時期は親のサポートは欠かせません。お子さんに一人で宿題を取り組ませるのではなく、例えば音読を聞いてあげたり、調べ学習に協力したり、親もともに取り組み理解しようとする姿勢が大切です。

学校や近くの図書館にHomework Clubという放課後に先生やボランティアから宿題のサポートを受けられるサービスがある場合は、そのような機会を利用するのもよいでしょう。学校で家庭教師を紹介してくれることもあります。地域や学校でどのようなサポートがあるのか情報収集してみてください。

Q8 イギリスの現地校での保護者会や学校行事に、親はどの程度参加すればよいのでしょうか。

A8 年に数回、Parents' Eveningと呼ばれる先生との面談が行われます。夜開催されますので、両親そろって参加することが望めます。父親もできる限り参加しましょう。

また、読み聞かせや音読の相手、校外学習の付き添いなど、多くの学校では授業のサポートのためのボランティアを募りますので、積極的に参加し、学校の様子や授業の雰囲気を実際に感じましょう。

さらに、イギリスには「学校は親といっしょに作り上げていくもの」という考え方があり、学校の修繕費用などを調達するため、学校でバザーを実施することがあります。このような機会にクラスメートの親と交流が深まることもあるようです。

親が学校で活動する姿は子どもにとっても頼もしく、安心感を与えるものとなります。

一口メモ

～イギリスの学校の1年～

イギリスの学校は3学期制で9月に新学期が始まります。9月から12月を秋学期 (Autumn Term)、1月から3月を春学期 (Spring Term)、4月から7月までを夏学期 (Summer Term) といいます。各学期の半ばには、1～2週間のHalf Term(ハーフターム)の休みがあります。学校は週5日制で土日が休みです(一部私立校を除く)。日本の学校のようなフォーマルな入学式や卒業式はありません。クリスマスやイースターなどの季節行事のほか、遠足 (Excursions) や修学旅行 (Residential Trip)、運動会 (Sports Day) などもあります。

Q9 現地校の勉強が大変そうです。日本の勉強はしなくてよいのでしょうか。

A9 現地校の宿題など、英語での学習負担が大きくなることは事実です。しかし、いずれは日本に戻ることを考えると、現地校の学習とともに日本の勉強も怠ることができません。

補習授業校*が近くにある場合は通わせて、国語を中心とした日本の学習の基礎基本を習得させましょう。また、補習授業校に通学させることで、日本人の友達との出会いがあることに加え、日本語で授業が「分かる!」という自信や達成感を味わえます。これらは現地校への適応を手助けすることになります。

補習授業校がない地域に住んでいる場合は、通信教育などを活用して基本的な学習内容は継続して勉強することが大切です。また、通信教育は補習授業校で行われていない教科の学習に活かすことができます。大変であっても最低限、国語の教科書を音読させるなどして日本の学年相当の国語力の維持に努めましょう。

帰国後のことを考えると、渡英直後から日本の勉強をすることを習慣づけ、継続していけるよう支えていくことが大切です。

*補習授業校…補習授業校ではおもに週1回、日本の教科書を使って国語をはじめとする日本の教科を学習します。また、学習だけでなく、日本の学校習慣・生活習慣なども指導し、日本の学校文化に触れる機会をなるべく多く設けるようにしています。

一口メモ

～イギリスの小学校の1日～

イギリスの公立小学校のある1日を紹介します(あくまで一例です)。

- | | | |
|--------------|-------------|--|
| 8:50 | 登校 | 学校指定の制服を着て、学校指定のリュックサックを持って、保護者の付き添い*1のもと徒歩または保護者の車で登校。 |
| 9:00 | 授業 | 算数の授業 |
| 10:30 | 休み時間 | スナックを食べたあと、全員で校庭で遊びます。 |
| 10:50 | 授業 | 英語の授業 |
| 12:10 | 昼休み | 昼食は教室ではなく食堂*2でとります。食堂で学校の給食 (School Meal) を食べることもできますし、お弁当を持参し、食堂で食べることもできます。給食の場合は事前に申し込みを行います。 |
| 13:10 | 授業 | 体育の授業
宗教の授業 (イギリスではカリキュラムの中に「宗教教育」の時間が位置付けられています) |
| 15:10 | 下校 | 保護者の付き添いのもと下校。 |

*1 保護者の送迎…条例で保護者が学校に子どもを送迎すべき年齢が規定されているため、イギリスの小学校では保護者が子どもを送迎する光景を見かけます。ただし、高学年になれば学校に届け出をして、子どもだけで登下校することもあります。

*2 食堂の席に限りがある学校では、学年ごとに昼食の時間が決められていることがあります。

財団事業と出版物のご案内

教育相談 (東京・名古屋・大阪・広島・小倉)

現地での学校選択、手続きや教育制度、高学年のお子さんの帯同、帰国後の受入れなど、専門の教育相談員との相談ができます。面談のほか電話やホームページからも相談が可能です。(面談・電話相談は予約が必要です。)

現地校入学のための親子教室 (東京・名古屋・大阪)

現地校へのスムーズな編入学を目的としています。「親クラス」では、現地の教育環境を中心に学習し、「子どもクラス」では、帰国生の話を聞いたりネイティブの先生と英語を使った体験学習をしながら、学校生活を身近に感じることを目的としたプログラムになっています。

渡航前配偶者講座 (東京)

海外生活をより楽しく充実したものにするための駐在員配偶者のための講座。心と情報の整理を通して学ぶ「海外生活準備コース」と、日常生活に即した「英会話コース」と「サバイバル中国語」があります。

渡航前子ども英語教室 (東京)

小学生のためのクラスで、最初の1ヶ月を乗り切るためのサバイバル・イングリッシュやPHONICS、学校で頻繁に使う単語の学習等を通して、英語に慣れることを目的にしています。

海外子女のための通信教育

海外子女専用の通信教育です。現地校で学んでいる小・中学生の学習状況を十分に配慮して作られた教材で、帰国後、日本の学校にスムーズに適応することを目的とした「小・中コース」のほか、幼児を対象とした「幼児コース」、小論文を書くための基礎的な力をつける高校生のための「小論文コース」があります。

新・海外子女教育マニュアル

財団教育相談室によって、出国の準備から帰国後の受け入れについてお子さんの教育に関するアドバイスを総合的にまとめています。イギリスの教育環境等についても詳しく説明しています(定価：2,800円 会員割引価格：2,400円)。

サバイバル イングリッシュ

新しい学校生活に1日も早くなじめるように「これだけは知っておいて」「こんな表現はよく使うよ」というフレーズ・単語を場面ごとに集めた日英対訳集。いつでも携帯できるコンパクトサイズの本。保護者向けお役立ちコラム掲載。(定価：800円 会員割引価格：700円)。

新・ことばのてびき 算数(数学)・理科用語日英対訳集

海外および日本の算数(数学)・理科の教科書によく出てくる学習用語(小4～中3程度対象)の対訳を引きやすくまとめた1冊です。お子さん自身だけでなく、家庭でお子さんの学習をフォローする保護者の方にも非常に便利と好評です(定価：1,200円 会員割引価格：1,000円)。

公益財団法人 海外子女教育振興財団

2012年11月発行

東京本部

〒105-0002
東京都港区愛宕1-3-4
愛宕東洋ビル6階
TEL 03-4330-1349
FAX 03-4330-1355
E-mail service@joes.or.jp

関西分室

〒530-0001
大阪府大阪市北区梅田3-4-5
毎日新聞ビル3階
TEL 06-6344-4318
FAX 06-6344-4328
E-mail kansai@joes.or.jp

ホームページ <http://www.joes.or.jp>

• 印刷 タナカ印刷